

## 令和4年度 総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和4年12月21日(水) 開会 午前10時00分  
閉会 午前11時00分
2. 会 場 根室市役所 3階 大会議室
3. 出席者等 根室市長 石垣 雅 敏  
(根室市教育委員会) 教育長 波 岸 克 泰  
委 員 岩 崎 園 子  
" 魚 谷 直 世  
" 兒 玉 歩  
(根室市立学校職員) 花咲小学校校長 植 島 博 幸  
花咲港小学校校長 久 保 木 聡  
落石小学校校長 加 藤 和 弘  
(事務局職員) 教育部長 園 田 達 弥  
教育総務課長 佐 藤 健 史  
教育支援担当主幹 上 原 哲 朗  
学校教育指導室長 高 野 智 晴  
学校教育指導主幹 山 谷 良 雄  
社会教育課長 藤 澤 進 司  
社会体育課長 森 本 崇 起  
図書館館長 松 崎 誉  
総務主査 飯 島 美 紀  
学校教育主査 川 嶋 哲 哉  
(傍 聴 者) 8名

#### 4. 付議事項等

意見交換：「根室市の学校教育が目指すところ」について

議 事：市教委各課の課題と将来に向けた取り組み

#### 5. 議 事

##### <佐藤教育総務課長>

ただいまから令和4年度総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、主宰者であります石垣市長より挨拶いたします。

##### 石垣市長あいさつ

##### <石垣市長>

本日は大変ご多忙の中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

また、教育委員の皆様には、日頃より当市教育行政の推進に多大なるお力添えを賜りますとともに、それぞれの立場で根室を支えていただいておりますことに心から敬意と感謝を申し上げます。

皆様ご承知のとおり、「総合教育会議」につきましては、地方教育行政法のもと設置されているものであり、自治体の長と教育委員が一堂に会し、教育行政について意見を交わすことで、教育施策の方向性を共有し、一致した考え方で執行にあたることを目的とするものであります。

今回で9回目の開催となりますが、皆様と有意義な情報共有、また、意見交換ができればと考えております。

2期目となる市長就任にあたっての所信表明の中で、教育につきましては、「教育・文化予算を確保し、子どもたちの教育環境の充実を図るとともに、生涯学習の推進と、芸術・文化・スポーツ活動を促進すること」について述べさせていただきました。

また、「落石中学校校舎等の移転新築の着手」、「学校給食費の無償化」と「ふるさと給食」の継続実施などの取組みに加え、学校給食の更なる充実に向け、民間活力の導入を含めた調理場整備の検討、遠距離通学を余儀なくされている根室高校生を対象とした「交通費の助成」などの経済的負担の軽減、スポーツ・レクリエーション機能充実として、「(仮称)総合体育館」の基本構想策定、「パークゴルフ場内ハウス」の整備などの新たな取組についても、市教委との連携のもと、積極的に推進して参る考えであります。

本日は、当市の将来を見据えた教育のあり方について、皆さんと意見交換し、今後の教育施策に活かしてまいりたいと考えております。

教育委員の皆さまにおかれましては、忌憚のないご意見を賜りますよう、ハードルの高い意見でも結構ですので、是非とも様々なご意見を頂ければ幸いです。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### <佐藤教育総務課長>

ありがとうございます。今回の総合教育会議は、これからの学校教育について意見交換するため、根室市小中学校校長会の会長であります落石小学校の加藤校長先生、同じく事務局長であります花咲小学校の植島校長先生、さらには、花咲港小学校の久保木校長先生にもご出席をいただいておりますので、ご紹介いたします。

それでは会議に入りたいと思います。会議の進行は、主宰者であります市長にお願いいたします。

## 意見交換「根室市の学校教育が目指すところ」について

### <石垣市長>

それでは進行を務めさせていただきます。

まず初めに、「2の意見交換」といたしまして、根室市の学校教育が目指すところについて、波岸教育長より説明をお願いいたします。

## <波岸教育長>

これまで教育委員会の会議においては、根室市の教育の在り方について様々な観点から議論を重ねてきました。その中では、郷土・根室を愛する心の育成、子どもたちが学びそのものに対して意欲を高めることの重要性、さらには魅力ある教育を創り上げることによって移住につなげる可能性などが指摘されてきています。本日は、こうした議論を踏まえて、現在、私が考えている根室市の学校教育が目指すところについて、お話をさせていただきたいと思います。

「資料1」をご覧ください。

根室市の学校教育が目指すところを「**Vision・Mission・Value**」としてまとめてみました。**Vision**～根室人としてのあるべき姿～は、市長が所信表明で示した「根室人の誇り、愛郷心」を学校教育でいかに育むのかということが最も大きな命題となると考えています。

また、新型コロナをはじめとして誰もが初めて遭遇する問題の発生、科学技術の急速な発達によって生活様式が大きく変わろうとしている現代において、常識や前提にとらわれず多様化する課題に柔軟に対応する力や多様性を受容し他者と協働する能力を育むことが根室市の発展のためには欠かせないことと考えます。

こうした根室人としての資質・能力を育むために学校に求められる使命を **Mission** として示しました。ここでは、社会に参加する市民を育てるふるさとキャリア教育の充実や自分の世界観を創り出すことができるレゴブロック型の資質・能力を育成する教育の充実、一人ひとりの個性と価値を認め合うインクルーシブ教育を実現させることが根室市の学校にとっては重要であると考えています。

そして、この **Vision・Mission** にたどり着くためには、毎日、子どもたちが最も多くの時間を過ごしている授業の中で、これらの資質・能力が磨かれていかなければなりません。先生の言うことをきちんと聞いているだけ、黙々と勉強して1点2点のテストの成績を上げるためだけに努力する時代は終わりました。

毎日の学習活動、生徒指導において、各自の学習レベルや関心に応じた内容を自分自身で学び方を選び取りワクワクしながら学ぶ学習、心理的安全の中で子ども同士が学び、教え合うことで互いに頼ることができる人間関係を築く指導に大きく変えていかなければなりません。そして、そのためには、これまで子どもは教えられる存在、教師は教え諭すことが仕事だとしてきた考え方を転換し、子どもは自立性、多様性に満ちた存在だと捉え直し、教師の役割は自ら伸びようとする子どもをサポートすることだと価値観を変えていかなければならないと考えています。

これまで、学校教育には様々な教育課題が降りかかってきました。学力向上、体力向上、いじめ・不登校、特別支援教育などなど。それらは、この図の青い部分で、これまではこの青い部分から出ずに、あれがいい、これがいいと迷走しながら解決策を探ってもがいてきたのが現実です。これからの根室市の教育は、**Vision・Mission・Value** を校長先生をはじめ、学校関係者と共有しながら充実に努めていきたいと考えています。

「資料2」をご覧ください。

説明した **Vision・Mission・Value** を実現するために、花咲港小学校の教育を大きく変えていこうと校長先生と検討している内容です。

左上の異年齢集団でのグループ編成に示していますが、障がいのある子どももいない子どもも学年の枠を超えた異年齢集団を基本単位として教育活動を行います。その上で、学校の教育活動は4つの基本活動をベースに進められます。

「サークル対話」は、道徳や特別活動に相当する活動です。自分の弱さや悩みもうれしいことも素直に話せるようにすることで信頼関係のある集団を育てます。

「マイプラン学習・自立学習」は、教科指導・授業に相当する活動です。教師が時間割を決めて指導するのではなく、子どもが学習計画を立てて各教科の内容を自分のペースで学んでいきます。特別な支援が必要な子どもは、北海道特別支援センターとオンラインでつながりながら障害の種類や程度に応じた自立活動をそれぞれのペースで行います。

「探究・ワールドオリエンテーション」は、各教科横断的な学習に相当する活動で、今回の学習指導要領で求められている学習です。マイプラン学習等の中で生じた問いを仲間とともに解決していきます。

「催し・地域協働活動」は、総合的な学習の時間や特別活動に相当する時間です。自分たちがやってみたい活動をやってみたり、地域のことを学んだりする活動です。

現時点では構想段階ではありますが、花咲港小では、こうした魅力ある学校を創り上げるため、既に様々なチャレンジを行っています。

このような子どもが自ら学びたくなるような教育活動を展開するとともに、障害のある子どももいない子どもも共に学ぶインクルーシブ教育を実現する魅力ある学校を作ることで将来的には移住者にまでつなげることができたらいいなと考えているところです。

## <石垣市長>

それでは教育長からの説明がありました「資料2」について、花咲港小学校の久保木校長先生より補足説明等がありましたら、お話いただければと思います。

## <久保木校長>

波岸教育長の説明にありました「資料2」について、本校の状況をご説明します。

本校は児童数10名と極小規模であることから、かねてより一人ひとりの子どもへの最適な学習機会を提供する個別最適化学習と地域連携をもとにした教育活動に取り組んできました。この度の行政方針は、これまでの本校における取組と一致し、さらに大きく発展させられるものであると捉えています。

5月に実施した教育委員会と全教員による協議をもとに、7月に「学校づくり検討委員会」を組織して校内での検討を進めてきました。資料2のモデルとしている広島県常石とともに学園の視察等を経て、現在取り組んでいる内容を2つ紹介します。

1つ目は、マイプラン・自立学習についてです。主に3・4年学級において、国語科と算数科で教科の順番や内容を大枠の時間内で児童が自分で考え、それぞれが計画をもとに学習を進めています。教室のレイアウトもそれに併せて「自分たちが勉強しやすい環境」へ児童の意見をもとに変更しました。自分の興味・関心の度合いや理解度・困り感によって調整できることから、学習に対する主体性・意欲の向上に効果があると児童・指導者ともに手応えを得ているところです。

2つ目は、異年齢集団による教育活動です。特別活動における従来の取組に加えて、新たに国語科と算数科において上級生が既習事項を下級生に教えるという活動を試行しています。先生となる上級生は「どうやったら相手が理解してくれるか」と悩む中で習熟度が深まり、下級生は教員による指導以上に主体的に取り組む姿が見られています。

また、現在、特別支援学級への在籍を希望している保護者がいることから、令和5年度から本校としては開校以来初めて特別支援学級が開設される見込みでいます。これについては、通常学級の児童と同じ場で生活・学習する中で、支援学級の児童に必要とする支援を提供していきます。支援学級の児童が抱える困り感も個性として捉え、みんなでお互いの価値を尊重し合えるインクルーシブ教育の実現を図り、特色ある教育活動として保護者の選択肢の1つとしてなり得るよう魅力ある学校づくりを推進していく考えです。

### <石垣市長>

ありがとうございました。

今回のテーマが当市の学校教育が目指すところということでもあります。こういった考えに対する学校現場としての受け止めや、先生方の意識改革などについて、加藤校長先生と植島校長先生お二人にお伺いをしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

### <加藤校長>

「資料1」について、本校の教職員を含め、根室市内の先生方はおおむねを理解されていると思います。特に Vision のところについては理解しながら教育活動を行っていると思っています。課題としては、この Value の中の一つ目です。そこに書かれている、各自の学習レベルや関心に応じた内容を、自分自身で学び方を選び取り、というところだと思っています。

なぜかという、一斉指導にしる、個別の指導にしる、先生が教えるのではなく子どもたちが自分自身で学んでいく、子どもたち同士で学び合うという、そういう力になりますが、ここが難しいと思います。熱心な先生ほど一生懸命教えようとするので、本当に教職員にとっては、発想の大転換が求められていると思います。

例えば適切かわかりませんが、根室の基幹産業であります漁業に例えたら、獲る漁業から育てる漁業への転換ぐらい違うのではないかと思います。

本当にできるのか、他のところでどうしているか、先進の学校の事例を学びながら、研修や、学習に対してはどのようなものが必要なのか、今の子どもたち一人一人に配布されているタブレットも今まで以上の使い方ができるのではないかと先生方が工夫しながら、自分の学校の子どもたちの事情に合ったところを探しているところかなと思います。

子どもたちが自分で学ぶ力を身につけていくためには、先生方がそのように学んでいかなければならないと思いますし、先生方が学ぶために、私ども校長が学んでいく姿勢を職員に見せなければならぬと思います。進めているところです。

## <植島校長>

加藤校長がおっしゃっていたように、根室市の教職員の受け止めというところでは進みつつあり、先生方の意識改革がより重要になってくると考えております。

教職員に話すのは、社会とか時代の変化についてです。スマホの登場で私達の生活は本当に大きく変わってきています。スマートウォッチの登場や現在は眼鏡型の端末が開発中との話もあり、また私達の生活が大きく変わっていくことになると思います。トラクター無人化の実証実験等も行われておりますので、漁船もきっと無人化していく時代も遠くはないのではないかと考えております。

一方で人間の役割は何かと考えると、新たな価値を生み出すことや、機械では白黒しか判定できないところをグレーや黒っぽい等と結論を出し、最適解を導くことが人間の役割になっていくのではないかと考えております。

学校ではどんな役割になっていくのかと考えると、先ほど教育長のお話でもありましたが、「教師が教える」から「子ども自身が学びをつくる」ということが大事になってくると話をしています。先生、次は何やるのという授業ではなく、子どもから、次はこれをやりたい、チャレンジしてみたいと、そういった子どもを育てていくのが私達の仕事になるのではないかと考えております。答えを教師が持っているのではなく、子どもたちが答えを導き、私達の役割はそれを支えていく役割に変わっていくと話をしております。

そのために、まずは教員が子どもの力を信じることが大事で、子どもにできることを教員が奪っていないか、大人が先回りして子どもの成長の芽を摘んでしまっていることはないだろうか、そういったところも含めて見直していこうとしています。学校内のみではなく、保護者や地域の方々にもこういった教育をしてきたいということを発信していきたいと考えております。

また先ほど、久保木校長からお話がありましたインクルーシブ教育について、支援学級在籍の子どもと通常学級の子どもの一緒に学ぶというところで、すごく良いなと思いますが、制度との整合性がどうなるのか気になっておりまして、特別支援学級在籍のお子さんについては、1週間の時間数の半分程度は個別で指導しなさいということになっていきますので、制度の縛りによって認められないというところを何か模索していければと考えているところです。

## <波岸教育長>

今の点に関しては、これから花咲港小学校で研究していただくのですが、文科省の方から、特別な支援が必要な子どもたちは週の半分程度、15時間程度は専門の指導を受けなさい、通常学級と一緒に交流するだけでは駄目との通達があります。

この部分についてはマイプラン学習、自立学習のところで、他の特別な支援のない子どもたちも自分に必要な学習を選んでいきます。そこに特別な支援が必要な子どもたちの自立に向けた専門的な指導を当てはめることによって、どの子ども同じ場所で自分にあった自分の指導、専門的な指導を受けている、ということで文科省の指導には反しない体制で取り組めるものだと考えております。

## <石垣市長>

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明を受けまして、各教育委員さんが学校教育について日頃感じていること、疑問等がありましたらお話をいただき、意見交換したいと思います。

## <岩崎委員>

根室に住んでいる子どもたちに根室の魅力をぜひ再発見してもらえるような話をしていただければと思っております。そういうことを学んだ子どもたちが進学や就職で根室を離れた後も根室のことを思い出して、また根室に帰りたくなってもらえるような郷土愛が育まれることを伝えていけたらいいなと思っております。

根室は他にはない手つかずの自然や野鳥がすごく多いこと、美味しい海産物など、魅力がたくさんあるので、そういう根室の魅力をアピールできる機会がたくさん増えたら良いなと思っております。

今回、高校生が地元産業等について学ぶということで根室半島を周るなど、そういった取り組みをしたことは素晴らしいと思っております。

## <魚谷委員>

先ほど教育長や久保木校長先生からお話があったとおり、魅力ある根室、そういった部分で今、根室市の一番の大きな課題は人口減少だと思っております。

その中でも少子化は大きな影響を与えており、特に今の状況というのは本当に減少からの減少で、100人から10人減ると、50人から10人減るのでは、その減少率からいったら同じ10人でも全然違ってくると思います。

そういった中、教育現場においては教員も少なく、集約するのか分散してやっていくのか非常に舵取りが難しいところだと思います。

先ほど、久保木校長先生からお話があったとおり、ここでしか受けられない授業があるというのは、すごくメリットだと思っております。全国的な少子化の中で、教育で移住先を選ぶ、教育移住をする親が増えているという話がありまして、根室の教育移住のメリットは何かないと考えると、やはり給食費の支援など、非常に子育て支援が充実している部分だと思います。保育園の待機児童数も非常に少ない。自然が多いというのは勿論ですけど、先ほどお話がありましたとおり、郡部校は児童数も少ないこともあって、地域間や教員間の連携が非常に密で、意思決定がすごくスムーズなのはメリットだと思っております。

教育移住について、ほぼ環境は整っているとは思いますが、やはり移住の住環境が非常に足りていないと思っております。人口減少、少子化対策のわずかな効果になるのかもしれないですが、是非、教育移住の制度整備をご検討いただければと思っております。

## <兒玉委員>

先ほど教育長からお話があった、根室市の学校教育の目指すところに通じることで、大きな本質を捉えた教育をしてほしいと思っております。そのために全員に等しく同じやり方の教育をするということには疑問を感じておりまして、同じように育て

でも兄弟で同じようには育たないと育児でも言われておりますので、教員も1人1人違えば、生徒も1人1人違いますので、やり方だけ揃えることに意味があるのかと考えます。

先日、我が家であったことですが、子どもが持って帰ってきたテストの問題が、㉔ですか、㉕ですかという問題でした。答えは㉕でしたが、私の子どもはBと書いて○がついてないから不正解で、私は子どもに対して変だと思わないかと聞いたら、「先生が気を付けてねと言っていたのに気を付けなかった自分が悪い」と話しましたが、その指導も必要なのか疑問に思いますし、先生が気を付けてと言ったのに、○をつけなかった自分が悪いと感じるような教育もどうなのかと感じます。

テストの点数が低くなってしまったということは関係なくて、そういう方針の指導をしているということが見えたのが「資料1」の本質を見失っているのではないかと考えます。内容を理解しているのであれば正解にすべきだと思いますし、何のためのテストなのか、落とすためのテストなのか、小学生ですので、全員が理解していたら全員が100点でも良いのではないかと思います。

そういうところの本質を捉えた授業や評価の仕方、そういったところを少し考えて指導していただけたらなと思います。

## <石垣市長>

どうもありがとうございます。

先ほど申しましたように、所信表明において、『次代を担う子どもたちのために、豊かな自然や歴史、伝統を守り、「笑顔の絶えない根室」をつないでいくとともに、故郷への更なる愛着と誇りを育むため全力を傾け、市政執行に尽くす』という決意を述べさせていただきました。

今回のテーマであります「Vision」「Mission」「Value」について、学校教育に携わる方々や保護者の皆さんなど、多くの市民が情報共有し、子どもたちに向き合っていくことが大切だと感じたところであります。

実は今朝、看護師さんの異動についての書き込みを見ていましたら、その中に道内のある市に看護師さんが移住したということでありました。その書き込みの看護師さんはどうしてその市を異動先として決めたのかというと、お子さんが特別な支援が必要なので、ここなら子どもが伸び伸びと自由な環境の中で育まれる、それを信じて移住をしてきたという書き込みでした。今日の教育長のお話もその流れだなと思ったところであります。

## 議事 市教委各課の課題と将来に向けた取組

## <石垣市長>

それでは、「3の議事」に入ります。

市教委各課の課題と将来に向けた取り組みについて、教育総務課から順に説明願います。

- ・ 教育総務課長 「小中学校の義務教育学校化の推進について」  
【議案 1 P】により説明
- ・ 社会教育課長 「放課後教室における開館・受入れ時間の繰上げ」  
【議案 2 P】により説明
- ・ 社会体育課長 「(仮称) 根室市総合体育館基本構想」  
【議案 3 P】により説明  
「根室市パークゴルフ場内ハウス建設工事」  
【議案 4 P】
- ・ 図書館長 「学校巡回図書事業」  
【議案 5 P】により説明

### <石垣市長>

各課長からお話のありましたことは、市の政策会議においても協議をされている事業であります。予算編成時期でありますので、来年度の予算に向けて今それぞれ準備しているところであります。

皆さんからご意見ありましたら、ご提言も含めてお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

### <魚谷委員>

総合体育館の建設について、青少年センターの老朽化が非常に進んでおりまして、私もランニングで利用しておりますが、災害対応の面からも早急をお願いしたいなと思っております。

日本全体が非常に温暖化しておりまして、夏のスポーツ合宿は北海道各地で盛んに行われつつあります。根室の寒いというデメリットはメリットに変わってきておりまして、建設に当たりましては、ぜひ他のスポーツ関連施設、それと交通利便性を含めた場所の選定をお願いしたいと思っております。

一番の問題点として、宿泊施設の不足が常に挙げられております。いろいろな手法があると思いますが、パーク PFI、こういったものも非常に注目されておりますので、行政の支援も含めまして、ぜひ教育だけではなく観光の点からも根室市教育委員会は 10 年後の未来を作っておりますので、総合的なご検討をお願いします。

### <波岸教育長>

教育はあらゆる分野の基礎となるものであって、ご指摘がありましたとおり、教育を進めることによって将来の根室市が形作られるということがありますので、今のご指摘を踏まえて検討していきたいと考えております。

また、根室市の学校教育が目指すところでお話させていただきましたが、社会教育も含めた根室市全体の教育はどういうところを目指すのかということについて、次年度の教育行政方針の中でお示しをさせていただきたいと考えております。

## <石垣市長>

宿泊施設については、現在も公共事業が続いており、公共事業に従事する方が沢山泊まっているという状況です。ホテルの誘致についてもある程度固まって、場所も前の場所は商業地ではなかったものですから、その地目変更といいますか、都市計画上の位置づけを変更して受け入れをできるようになって、さあ行こうかというときにコロナで何年間か遅くなっておりまして、今またあらためて話をしているところであります。

ホテルは慢性的に足りない状況で、市内のホテル業界の方からもぜひ誘致した方が良くと後押しもいただいておりますので、しっかりやっていきたいと考えております。

## <石垣市長>

様々なご意見いただきまして、またご提言をいただきまして、誠にありがとうございます。本日、皆様からいただきましたご意見、ご提言は、今後の施策検討に向けて庁内の関係部署ともしっかりと情報共有を進めてまいりたいと考えております。

## その他 について

## <石垣市長>

続きまして、「議題4、その他」について、なにかございますか。

## <兒玉委員>

昨年の総合教育会議で子どもたちのマスクについて意見したと思いますが、1年経って子供たちのマスク実質義務化はそんなに変わっていない状態で、いろいろな意見やわかってきていることがあって、マスクの予防効果はそんなに高くないということや、3歳のお子さんの言葉の発達が非常に遅れているということ。これは3歳のお子さん本人はマスクをしておりませんが、周りがマスクをしていて口元が見えないために言葉が発達しておらず、3歳児検診で引っかかるお子さんが非常に多いということ。

あとは表情が読めない、口呼吸が癖になってしまって感染する、虫歯や歯並びなどの様々な問題点が指摘されていて、この1年間の中で厚労省等からマスクを強要しないことや、給食における黙食の緩和が発表されましたけれども、学校の方から父母に周知されることはありませんので、その周知をお願いしたいと思います。

## <園田教育部長>

教育委員会と市対策本部と情報共有しながら学校現場の対応について、このように取り組んでくださいとお願いしているのですが、市中の11月はかなり感染拡大があり、感染状況を見ていると未就学児の感染が多かったということもありまして、やむを得ず引き続きの取り組みをお願いしていたところです。

先日の市議会にも同様の意見書が提出されまして、それが採択されたという状況もあります。また、文科省の方でも給食時間帯にできるだけ子どもたちがコミュニケーションを取れるようにということや、登下校時はマスクを外して良いとの通知もきております。

これまで、市中の感染状況を見ながら、市内小中学校の校長会議等で相談しながら対応してきておりますので、兒玉委員のご意見は承知しておりますが、地域の状況を見ながら対応してまいりたいと思っておりますので、もう少々お待ちいただきますようお願い致します。

## 閉会

### <石垣市長>

それでは、本日予定された議件は全て終了いたしました。

本日のご意見を踏まえながら、根室市の将来を見据えた教育施策しっかり進めてまいりたいと考えております。

本日は貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございます。

### <佐藤教育総務課長>

以上をもちまして、令和4年度根室市総合教育会議を終了いたします。

11時00分閉会